



新進若手を中心に多様な人材を 国内外から発掘・育成、新たな創造と ビジネスのチャンスを提供

- 世界を牽引し文化面で東京の活力を創出する新たな才能、人材の発掘や育成を、国際的な視点から展開していく。
- 国内外の才能ある芸術家やデザイナーなどを積極的に受け入れ、活動の場を提供することにより、彼らが魅力を感じて自然と集まる世界的な拠点とし、文化都市としての実力とその更なる可能性を高めていく。
- 才能ある芸術家の革新的な表現を可能にすることや、その表現活動を経済的に発展させていく取組を支援する。



アートフェア東京 2014会場風景 / 撮影：岩下宗利

東京が持つ芸術文化の力

- 歴史的建造物と斬新な現代建築が共存する街並み、江戸時代から続く伝統や技、日々の暮らしに彩りを与えてくれるデザイン、展覧会やコンサート等、東京の都市の魅力は多様な人材・技術者による創造活動に支えられている。
- 特にポップカルチャーと言われる分野での芸術家・作家(クリエイター)たちの自由な発想は、世界からも注目を浴びている。
- 東京には芸術系の教育機関が集積し、芸術やデザインの未来を担うクリエイターを志す学生数は世界有数の規模を誇っている。

現在の取組例

- 都では、現代を鋭く照らし出す若手作家を紹介する展覧会を開催。その他にも、公募展、企画展、海外派遣など、様々な形の育成プログラムを実施している。
- 多くの民間企業や財団は、新進芸術家の発掘や発表の場の創出として、顕彰事業に取り組んでおり、若手芸術家や芸術団体の実績づくりに寄与している。



アーティスト・イン・レジデンスでの創作風景



映画分野の人材育成事業「タレンツ・トーキョー2014」でのレクチャーの様様
 (画像提供：タレンツ・トーキョー実行委員会)

施策の方向性

様々な国の芸術家が集い、 国境を越えた交流・協働を育む 都市として、創造基盤の 整備を推進

- 自治体や企業、NPO等と連携し、空き店舗や古民家などを活用したアーティスト・イン・レジデンス^{※1}の整備を推進。多様な芸術分野の才能ある人材を積極的に受け入れ、交流を促し、作品の創作に向けた新たな発想や表現を生み出す場として展開する。

現代美術、音楽、演劇、映像など、 国際的に高い発信力を持つ才能の 海外進出を支援

- 才能ある芸術家と海外の批評家や有力キュレーター^{※2}などとの出会いの機会や作品の販売を通じた自立につながる海外進出を、様々な支援機関が有する奨学金制度等も活用して、推進する。
- 世界において活躍が期待できる新進芸術家を表彰し、将来の国際的活動を支援するなど、若手の登竜門として位置付けられる新人賞等を創設し、その価値を高めていく。

東京都現代美術館等を核とした 世界的魅力を持つ 創造拠点・発表の場の創出

- 内外の美術館との連携により、東京都現代美術館を世界に冠たる現代美術の創造と発表の場とする。
- 現代美術の分野で新人賞等を得た若手芸術家に対しては、東京都現代美術館における展覧会の道を開く。

ビジネスチャンスの提供と 新たな創造を支える 仕組みの構築

- 市場の創出や販路の拡大などに精通したアートマネジメント^{※3}等の人材や、芸術文化を支える技術者を育成するため、企業、芸術系大学、NPOや芸術文化見本市等と連携の上、育成カリキュラムの作成や相互交流等を進めていく。

※1 国内外から芸術家を一定期間招へいし、滞在中の創作活動等を支援する事業のこと。

※2 美術館や博物館等において、その施設が収集する資料に関する調査研究や、学芸員としての専門知識を活かした展覧会の企画等を行う人のこと。

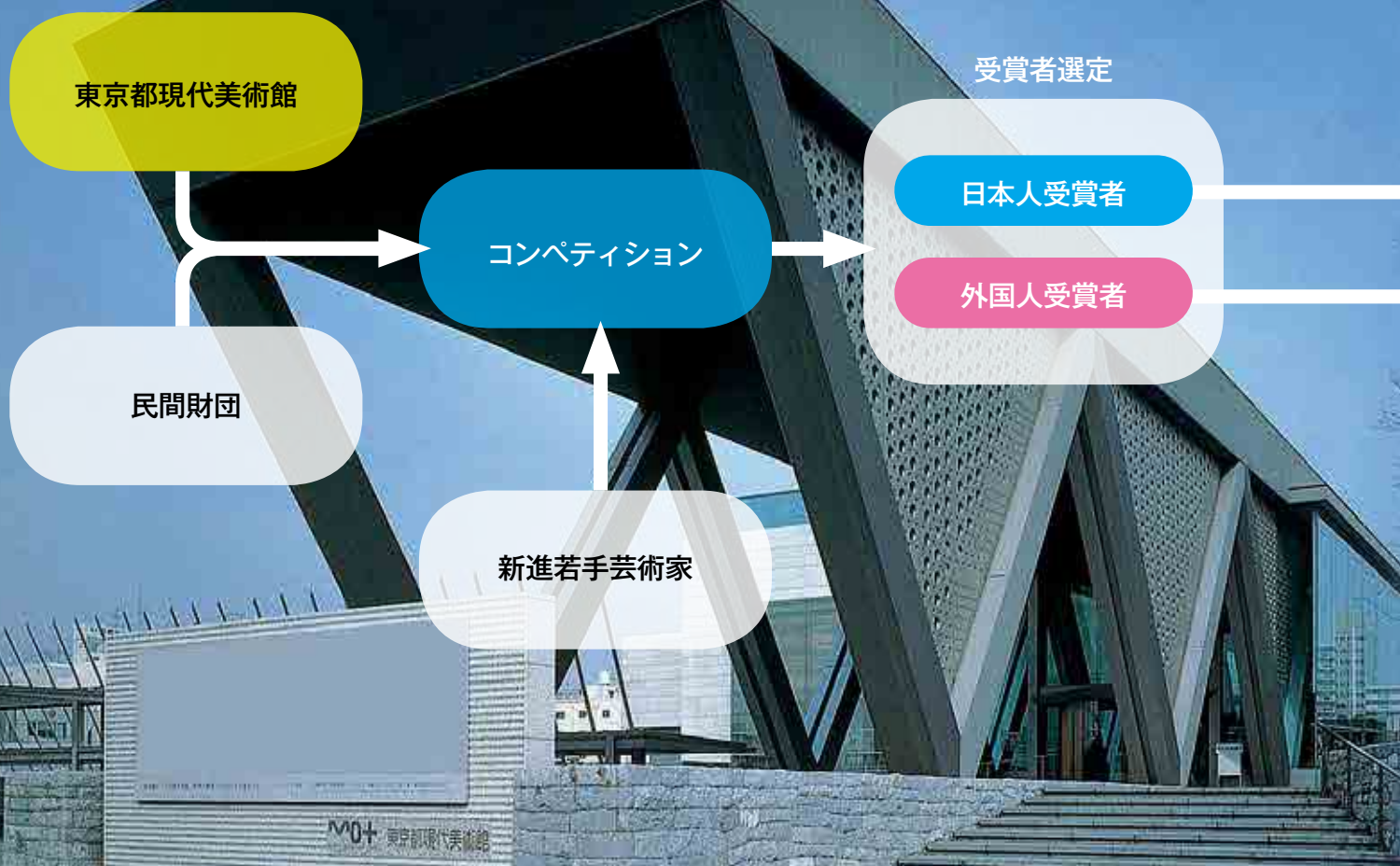
※3 公演や展覧会等の企画や制作、事業資金の獲得など、芸術文化の作り手と受け手をつなぐために必要な業務のこと。

「東京新人賞（仮称）」創設

目指す方向性

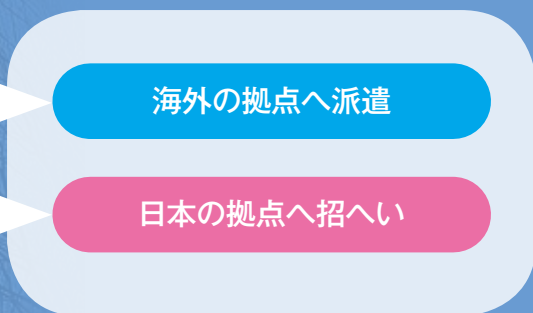
- 世界での活躍が期待できる多分野の新進若手芸術家の登竜門として、新人賞などのコンペティションを創設。
- 受賞者に対しては、海外派遣等、将来の国際的活動を支援する。

「現代美術」の例

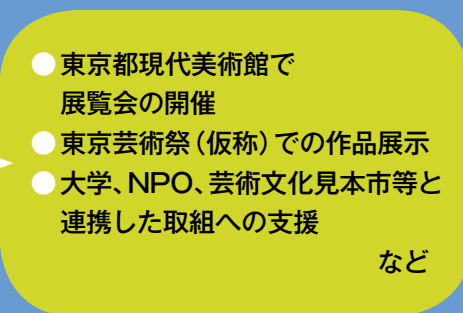




創造拠点(レジデンス)に派遣・招へい



受賞者に対する継続的な活動支援



芸術家が目指す人材像に沿った特徴を持つ
国内外の各拠点に派遣・招へいする

創造拠点の特徴(例)

- 芸術家の表現能力習得や人脈形成を目指す拠点
- 異なる表現技術、アイデアを持った芸術家が集まり
革新的な表現の創造を目指す拠点
- 芸術家の創造活動による地域創生、産業振興等を目指す拠点
- 最先端の工業技術や情報技術を指導し、
芸術表現に活用することを目指す拠点
- 国際展、芸術祭と連携し、創作した作品が
多くの人の目に触れる機会が用意されている拠点

- 東京都現代美術館で
展覧会の開催
- 東京芸術祭(仮称)での作品展示
- 大学、NPO、芸術文化見本市等と
連携した取組への支援

など



Message from Kundo Koyama

放送作家／脚本家
東京芸術文化評議会 評議員

こ やま くん どう
小山薫堂 氏

東京は東京都民だけのものではありません。

日本じゅうの町から東京にいいものが集まり、ここからまた世界や国内に発信されます。いわば東京は、日本という国のショールームなのです。

ここに集まった芸術や文化を、東京という都市が和えて、新しいものを作り出します。その時に生まれる新鮮な感動に会えるから様々な人が集まります。そんな東京に行けば刺激的な人に会えるから、世界じゅうが注目します。

東京の「あえる魅力」は、日本の他の地域のおかげでもあります。東京はそれを忘れることなく、謙虚に、しかし圧倒的な熱量と革新的な文化価値によって、2020年に向かって躍進しています。

Message from Hiroshi Sugimoto



現代美術家
東京芸術文化評議会 評議員

すぎもとひろし
杉本博司 氏

現在の東京の始まりは、1603年に徳川家康が江戸湾の奥に潜む小寒村にすぎなかった江戸に、徳川幕府を開いたことに始まります。家康はなぜここに首都を作ろうと考えたのでしょうか。鎌倉や小田原はすでに中世都市として完成していました。そこにすれば初期投資は少額ですみます。私は家康には都市計画の壮大なビジョンがあったと見ます。肥沃な関東平野を開発し、日本全土の首都とするという計画です。江戸の大火、宝永の富士山大噴火、関東大震災、そして先の大戦。数々の試練を乗り越えて四百数十年、東京となった江戸は、世界有数の都市として、今さらなる一歩を進めようとしています。